

MIYAGI's Forestry

みやぎの林業だより

233号

令和6年8月27日発行



◀みやぎの林業だよりバックナンバーはこちら

成長する海岸防災林

—— 伐採の届け出・森林の新規所有の届け出は、市町村へ ——

記念行事が県内各地で開催されています！

～記念行事を随時募集中！一緒に育樹祭を盛り上げていきましょう！～



全育っしん

2025全国育樹祭

vol.3



R6.5月 登米市 市民の森植樹祭



R6.5月 気仙沼市 出前講座(百瀬小)



R6.6月 女川町 出前講座(女川小)

令和6年2月から募集を開始した記念行事が県内各地で開催されています。育樹祭の開催を広く周知し、開催気運を盛り上げるため、森林や緑化等の行事を記念行事に認定しています。記念行事に認定されると、チラシやノベルティの提供を受けられ、育樹祭のノボリ等も御使用いただけるほか、育樹祭HPでのPRも可能です。申請は「みやぎ電子申請システム」からも受け付けています。皆さんの思いをつなぎ、皆さんの力で育樹祭を盛り上げていきたいと考えています。育樹祭の趣旨に合致する行事を幅広く募集していますので、是非御応募ください。分からない点は、気軽に御相談ください。

◆問合せ先◆
全国育樹祭推進室
事業推進班
☎022 (724) 7290



みやぎ電子申請システム
応募フォーム



(参考)
これまでの
記念行事情報

『協賛』の御協力をお願いします！

～育樹祭の成功に向けて～さまざまな協賛特典もご用意しています。

令和6年4月から御協賛いただける団体、企業の方々を募集しています。

資金協賛のほか、物品協賛や広報・PR協賛も受け付けております。期間は育樹祭の開催日の2か月前まで受け付けています。協賛いただいた企業等には、大会プログラム(右写真)や記念誌・式典協賛ボードへの企業ロゴの掲載や記念品・感謝状の授与など様々な特典を御用意しています。育樹祭を多くの方々の心に残る実り多きものとして成功させるため、御協力のほどどうぞよろしくお願いいたします。



▲協賛の詳細情報はこちら

◆問合せ先◆
全国育樹祭推進室
総務企画班
☎022 (724) 7261



(参考)第46回全国育樹祭
大会プログラム
〔令和4年・茨城県開催〕

ホームページをcheck!!

令和6年4月から第48回全国育樹祭公式ホームページを開設しました。お知らせや記念行事等のイベント情報など掲載していますので、是非、チェックしてみてください。



▲公式ホームページはこちら

開催まであと1年です！
ちよっと

「1年前プレイベント」いよいよ開催！

今年秋

～国民参加の森林づくりシンポジウム～

基調講演は、(株)EIGHT CROWNSを設立し、音楽活動の傍ら養蜂家としても活躍するMONKEY MAJIKの菊池拓哉さんと、メイナード・プラントさんのお二人です。このほか、豪華キャストによるパネルディスカッションや、プレゼント抽選会を行います。木工ワークショップや木育スペースの設置など、お子様にも楽しんでもらえるコンテンツを企画中です。詳細は決まり次第アナウンスしますので、是非、御参加ください。

【基調講演】



MONKEY MAJIK
菊池 拓哉 氏
メイナード・プラント 氏

【パネルディスカッション】

■コーディネーター

長野 麻子 氏 株式会社モリアゲ

■パネリスト

小友 康広 氏 株式会社小友木材店

會津 浩幸 氏 登米町森林組合

長谷川 琢也 氏 (一社)フィッシャーマン・ジャパン

参加無料

令和6年 **11.16** 土

13:30 ~ 16:30 (受付 12:30 ~)

会場：東北大学百周年記念会館 川内萩ホール(仙台市)

一緒に学ぼう!



担当者の「樹に成る」取材日記

開催まで間もなく1年…。あせる担当者の奮闘記を「樹に成る」情報としてつぶやきます。今回は、木製ノベルティ、ワークショップのアイデア、樹を愛する熱い人を探し、県南方面に車を走らせました。そよ風に誘われ、行き着いた先は…「うらにわあとリエ」さんです。

樹々に囲まれた古民家を改修したアートギャラリーに作家さんの作品や商品が並んでいます。どこか温かく、少しホックリした素敵な空間でした。管理人の阿部さんは突然お邪魔したにもかかわらず、作品について丁寧に説明してくれました。様々なデザインの「にゃんこけし」にホックリ。箸づくり等のワークショップも行っており、育樹祭イベントでのコラボをお願いしました。



「にゃんこけし」が樹に成るかたは、こちら▶



昭和万葉の森植樹祭を開催！

～昭和30年 第6回全国植樹祭 宮城県初開催地にて～

初めて本県で全国植樹祭が開催された大衡村の昭和万葉の森において、植樹祭を開催します。昭和天皇皇后両陛下がお手植えされた樹種と同じ、アカマツや広葉樹の苗木約500本を植栽します。こちらも詳細は追ってアナウンスしますので、是非御参加ください。

参加無料

令和6年 **11. 9** 土

10:30 ~ 11:45

会場：昭和万葉の森(大衡村)



植樹祭のイメージ

一緒に植樹しよう!



◆問合せ◆
全国育樹祭推進室
事業推進班
☎ 022 (724) 7290



昭和万葉の森 御成山のアカマツ (植樹場所)

**宮城林業の
お知らせ**

県内で実際に利用・体験できる林業のお知らせをお届けします。
気になる情報・イベントがありましたら、是非御参加ください。



8月料理教室の作成料理

宮城県では特用林産物(きのこ、たけのこ等)の新たな調理方法を提案し、実際においしさを知り消費拡大につなげることを目的として、県産きのこの料理教室を開催します。今年(令和6年)は八月二十七日(火)と十月十一日(金)の二回、仙台市ガス局ガスサロンで開催されます。八月二十七日に開催された料理教室では、仙台市ガス局の管理栄養士さんに講師を務めていただき、きくらげをメインに、夏でもさっぱり食べられるきのこの料理を調理しました。



料理教室の様子

また、当日はきのこについての講話や、御参加いただいた方への宮城県産きのこのお土産も配布します。調理方法や知識を知ること、宮城のきのこの新たな魅力を発見できます。是非、仙台市ガス局か県のホームページから詳細を確認の上お申し込みください。

★十月料理教室メニュー

- きのこ豚バラのつけ蕎麦
- しいたけと絹揚げの鶏みそ田楽
- 彩り野菜ときのこの和風ナムル
- ヨーグルトプリン
- 白きくらげとフルーツのマリネ

**食欲の秋を楽しむ
きのこの料理教室の御案内**



「栗原苔フェスティバル2024」開催します

栗原地域事務所では、地域の新たな生業の創出として着目した「苔」の産地化・聖地化を図るため、栗原市や関係機関等と連携して様々な取り組みを進めています。

このたび、10月26日(土)と27日(日)の両日、栗原市栗駒の「栗駒山麓ジオパークビジターセンター」を会場とした、「栗原苔フェスティバル2024」の開催が決定しました。

この催しは、「くりはらの苔」の魅力発信と認知度向上を目的に毎年開催しており、今年で六回目となります。昨年は約千人の方々に御来場いただきましたが、今回も趣向を凝らした様々な企画を予定しています。

初日は、県内外の苔生産者や事業者による展示・販売や苔テラリウム、苔玉の作製体験などを行います。二日目は、動画サイトYouTubeなどで苔テラリウムの作製動画を配信している方を迎え、デモンストレーションとトークショーを行います。また、栗原地域の地場産品を販売する「くりはらマルシェ」も同会場で開催されますので、栗原の味覚も併せて堪能していただけます。

なお、両日とも苔玉作製体験など一部企画への参加には、事前の予約が必要となります。詳しくは、県のホームページ又は右のQRコードから御確認ください。

今年も、栗駒山麓のジオパークと織りなす「苔の世界」を体感していただきますよう、多くの御来場をお待ちしています。

(北部地方振興事務所栗原地域事務所)



開催ポスター



詳しくはこちら▶

海岸防災林伐採木等の有効活用始めます！

東日本大震災の津波により壊滅的な被害を受けた海岸防災林は、国・県・民間団体が連携しながら、植栽基盤の造成工事やクロマツ等の植栽を行い、震災から十数年の歳月をかけ再生されつつあります。

植栽後は、下刈やつる切りなど、健全な海岸林育成のための保育管理を行ってきたところ、順調に生育してきたことから、令和五年度からは県内全域で本格的に本数調整伐(間引き)の作業に取り組んでおります。

作業により発生する伐採木は、松くい虫被害を拡大させるマツノマダラカミキリの温床となる可能性があることから、これまでは産業廃棄物として処分してきましたが、将来にわたって海岸林を管理するためのコスト削減を図ること、循環資源としての有効活用を



提供イメージ

推進することを目的に、木質バイオマスとして利活用していただくための仕組みを作ることとしました。今年度の本数調整伐は九月頃から始まりますので、譲渡会は秋以降を予定しています。県のホームページでは、詳しい制度の紹介や事前登録の方法、譲渡会の日程や会場など、随時情報を更新していきますので、是非御覧ください。

<https://www.pref.miyagi.jp/p/soshiki/sirin/bassai bok ukatuyou.html>

(森林整備課治山班)

←利用形式は複数に分かれます

(一)利用者事前登録タイプ

- ・県が事前審査し認められた登録利用者に対して無償譲渡する。
- ・企業等が大量に消費する場合を想定。
- ・譲渡会の日時等を登録者にお知らせする。

(二)個人自由利用タイプ

- ・事前登録は不要で、県が告知した譲渡会場で一般利用者へ無償譲渡する。
- ・個人が少量の利用をする場合を想定。

『みやぎ水産の日』

地域の小さな販売会×林業

東部地方振興事務所では、毎月第三水曜日の『みやぎ水産の日』に合わせ、合同庁舎一階で地域の小さな販売会を開催しています。販売会のメインは海の幸ですが、今年度は一面に林業ブースを設け、管内で生産されたきのこやジビエ加工品など、山の幸も販売しています。

五、六月は菌床しいたけや干しきくらげ、鹿肉ソーセージなどを販売しましたが、いずれも好評で、全て完売となりました。

販売会に訪れた方からは、「身近な場所できのこが生産されていることを始めて知った。」「鹿肉ソーセージを購入したが、とても美味しかった。」といった声があり、管内のきのこやジビエの生産状況などを知っていたただく良い機会となつていきます。

また、会場内に森林の働きをまとめたパネルを展示し、森と海のつながりについても周知を図っています。

『みやぎ水産の日』地域の小さな販売会は毎月第三水曜日(八月を除く)の午前十時から午後一時まで開催しており、きのこについては主にしいたけの販売となります。

が、管内の生産者に月替わりで出店いただいております。味比べなども楽しんでいただけます。

さらに、同日(十一、二月を除く)の午前十二時十五分からは「山大 Sustainableふれあいコンサート『石巻合庁』を開催しており、音楽も併せて楽しむことができます。コンサート会場には、株式会社山大、石巻地区森林組合と当所の三者で締結した「石巻圏域における再造林促進に関する協定」の植樹式の様子もパネル展示し、森林資源の循環利用の大切さもPRしています。

盛りだくさんの内容となっておりますので、毎月第三水曜日(八月を除く)は是非石巻合同庁舎にお立ち寄りください。

(東部地方振興事務所)



販売会(林業ブース)の様子

SDGsの取組

森林の恵みを活用する林業・木材産業は、様々なSDGs(持続可能な開発目標)の達成に大いに貢献しています。

木製品を素敵にアップサイクル！ 「飛沫防止パネルに新しい命を吹き込む取組」

新型コロナウイルス感染症防止のため、登米市津山町で製作された飛沫防止パネルは、役目を終え、木枠部分を活用して、津山木工芸品事業協同組合員や登米市地域おこし協力隊の方々が、木工技術を生かした新しい製品にアップサイクルしています。

「ディスプレイボード等製作」

パネルの横木部分を活用して、ディスプレイボードやトレー、木箱などを製作しました。自分で作ることが出来るアップサイクル製品は愛着が湧きます。

「木目を生かした椅子製作」

パネルの足部分を活用して、細かい部材を接着し、椅子の座面を製作しました。様々な木目が合わさり、素敵な風合いがあります。接着は登米市津山町で製作されている「矢羽集成材」の技術を活用しています。

木材は、多くのエネルギーを使うことなく比較的簡単に加工することが出来る環境負荷の少ない資源です。生まれ変わった木製品を大切に使う暮らしを

始めませんか。

(東部地方振興事務所)

登米地域事務所



生物多様性について

「生物多様性」の取組を知っていますか？

森林・林業の話題でも目にする機会が多い言葉ですが、今回は「生物多様性」の意味と大切さ、現状と県の取組についてご紹介します。

私たちの暮らす宮城県には、森、川、沼、水田、干潟や海など、多種多様な自然環境があり、そこには色々な形や色・大きさ・個性を持つ生きものが住んでいます。こうした多様な環境の中で、それぞれの生きものが自然を介して、他の生きものとの間に相互に関わりを持っていくことを、「生物多様性」と呼びます。

生物多様性を基盤とする生態系は、私たちの暮らしを支えてくれています。林業・木材産業分野を例に考えると、森林生態系の中で育まれる木材やキノコ・山菜などの林産物は、自然からの恩恵であることが挙げられます。こうした恩恵は、生態系のバランスが取れていることによってもたらされています。私たちがこうした恩恵を将来にわたって享受し続けるためには、生物多様性が健全に保たれていくことが重要です。

しかし、現在、その生物多様性は危機に瀕しており、生

物多様性の損失を止め、回復させていく「ネイチャーポジティブ」の取組が世界的に進められています。

県自然保護課では今年度、県におけるネイチャーポジティブの実現に向けて、「宮城県生物多様性地域戦略」の改訂作業を進めるとともに、農林水産業、土木、経済、教育など幅広い部局を参集した「庁内連絡会議」を設置し、県各部署一体となって、ネイチャーポジティブに取り組み体制を整えています。

私たちの社会が持続可能なものとなるよう、森林・林業を支える皆様におかれましても、生物多様性の保全の取組に一層の御理解と御協力をお願いします。(自然保護課)



目指すべき姿のイメージ(抜粋)

融資等のご案内

林業・木材産業を営む皆様に対する金融支援として、無利子で設備資金を貸付する林業・木材産業改善資金と、事業者の信用力を補完し融資を受けやすくする林業信用保証制度について御案内します。

林業・木材産業改善資金について

林業経営、木材産業経営の改善、林業労働による労働災害の防止及び林業従事者の確保を目的に、事業者の皆さんの創意工夫を活かした様々な取組に対し、必要な資金を無利子で貸し付ける制度です。

【貸付対象事業】

- ・新たな林業部門、木材産業部門の経営の開始
- ・林産物の新たな生産、販売方式の導入
- ・林業労働に係る安全衛生施設、福利厚生施設の導入

【貸付対象者】

- ・林業に携わっている方
- ・木材産業（木材製造業・木材卸売業など）を営んでいる方
- ※新規参入も対象となります。

【金利】

- ・無利子

【貸付限度額】

- ・林業事業者：個人1500万円／会社3000万円／団体5000万円
- ・木材産業事業者：1億円

【償還期間】

- ・十年以内（うち据置期間三年以内）

- ※東日本大震災による特例及びその他法律の特例により、償還期間及び据置期間が延長さ

れる場合もあります。

【担保及び債務保証】

- ・民間金融機関から融資を受けようとする場合は、出資金及び保証料を支払うことで、農林漁業信用基金による林業信用保証を受けることができます。
- ・担保及び連帯保証人が必要となる場合もあります。

【相談窓口】

- （申請方法等について）
- ・最寄りの県地方振興事務所（地域事務所）林業振興部林業振興班
- ・県林業振興課調整班
- ・制度の詳細や様式については県ホームページも御覧ください。



（融資について）

- ・七十七銀行
- ・仙台銀行
- その他の金融機関を利用した場合

（債務保証について）

- ・農林漁業信用基金（林業部門）

（林業振興課調整班）

林業信用保証について

（独）農林漁業信用基金は、林業・木材産業を営む皆様が融資機関から融資を受ける際に、その債務を保証することにより経営をサポートする「林業信用保証」を提供しています。豊富な保証実績と行政や関係団体との強いネットワークによって、事業者の皆様や融資機関等に対して様々な情報提供も可能です。是非、お気軽に御相談ください。

【保証の対象資金】

- 林業・木材産業の事業用資金全般
- （例）苗木・立木の購入費、燃料費・人件費等の運転資金、建物・林業機械・木材加工機械の整備等のための設備資金等

【保証料】

- ・保証の提供に当たり、財務内容に応じた保証料が必要です。
- ・保証料率は年〇・一五～一・八〇%以内と低く設定しています。
- ・新型コロナウイルスや原油等価格高騰対策、自然災害からの復旧、新規創業への支援等は、最大五年間の保証料免除が可能です。

【お問い合わせ】

- 林業信用保証管理部
- 電話 〇三（三四三四）七八二五



宮城県水産林政部はInstagramで水産業・林業などに関する情報発信を行っております。ぜひ「海山人みやぎ」のフォローをお願いします!!

アカウント名：UMIYAMA HITO.MIYAGI
URL：https://www.instagram.com/umiyamahito.miyagi/



地域レポート 各圏域の取組を紹介します。

社団法人南三陸Y E S工房が富県宮城グランプリ特別賞を受賞

一般社団法人南三陸Y E S工房(以下「Y E S工房」)が、第12回「富県宮城グランプリ」特別賞を受賞されました。

Y E S工房は、震災後に地域住民の雇用創出と交流の場づくりを目指してきた工房です。主力商品の「オクトパス君」は企業とのコラボ企画等も多く実現しているほか、昨年度開催されたG7広島サミットにおいて、東日本大震災復興PRブースが設けられ、復興庁の推薦もありオクトパス君が被災3県の代表として海外メディア向けPR大使として参加するなど、シンボルキャラクターとして広く認知されています。

また、南三陸杉を活用した木製品やまゆ細工の製作・販売を主に行っており、地域のものづくり産業の模範となっています。

その他にも、教育機関等を対象としたモノづくりワークショップの積極的な展開などが、町の知名度アップや観光面に貢献していることが評価され、今回、特別賞の受賞に至っております。

なお、将来的には同賞のグランプリ受賞を目指

してもらえるよう、当事務所としても継続した支援を行ってまいります。

(気仙沼地方振興事務所)



ゆめ多幸(たこ)鎮(ちん)
オクトパス君

富県宮城グランプリ受賞式

愛鳥モデル推進校(川崎町立富岡小学校)で探鳥会を開催

県では、野生生物保護思想の普及の一環として、愛鳥モデル推進校を設定し、児童生徒を対象に各種保護活動を通じて、野生生物保護意識の啓発を行っています。

今年度より、愛鳥モデル推進校の指定を受けた川崎町立富岡小学校では、普段の学校生活や家庭生活の中で、野鳥や自然に目を向ける機会を作ることを目的に様々な活動を検討しています。それらの活動を支援するため、当所林業振興部の職員を講師として派遣し、5月21日に1年生から3年生を対象に探鳥会を開催いたしました。

当日は、天候に恵まれ、ウグイスの鳴き声が聞こえる中、校庭や学校近くの河川敷で、スズメやツバメ、キジなどの野鳥を観察することができました。

今回の探鳥会は、低学年生が対象ということもあり、初めて使う双眼鏡に悪戦苦闘しながら、楽しそうに野鳥を捜す姿に心癒され、野鳥だけではなく、魚や虫を無邪気に観察する姿に、自然とのふれあいの大切さを再認識する一日となりました。

富岡小学校では、今後、高学年生による巣箱づくりなども計画されており、このような活動を通じて、子供たちが宮城の豊かな自然を体感することで、自然環境への保護意識が芽生えることを願うばかりです。

(大河原地方振興事務所)



キジが隠れているよ、
みつけれられるかな？

探鳥会の前に学校周辺の
野鳥について、お勉強

地域レポート 各圏域の取組を紹介します。

大崎森林組合が、基金助成を受けた森林整備等に着手 ～公益信託農林中金森林再生基金 通称：農中森力(もりぢから)基金の助成決定～

大崎森林組合が、第10回の農中森力基金に応募し、全国15件の中から選ばれ(決定7件)、「鳴子温泉『雫の森』再生プロジェクト」として、渓流沿いの荒廃した森林の整備等を行うこととなりました。

当該基金は、森林施業の課題である「施業集約化」や「搬出間伐等」の取組を更に加速させるため、高い波及効果が見込まれる事業や先進性のある事業に、重点的に助成が行われるもので、林業事業体の事業実施体制整備のサポートをすることを目的としています。

今回、同組合が整備を行う森林は、大崎市鳴子地区に位置し、長年、森林施業が行われず荒廃し、水源かん養機能が発揮されず、地域内の渓流に生息する魚にも悪影響が及んでいました。

このため、この公益的機能の低下した混交林において、針葉樹は一部带状択伐を含む搬出・切捨間伐を、広葉樹は一部植栽を含む更新伐や切捨間伐を実施することとしたものです。

今回の取組を通じて、高い水源かん養機能や土砂流出防備機能を持った、多様で健全な森林を整備し、渓流魚が自然産卵できるような生態系の保全を図り、加えて観光地でもある鳴子峡の景観保全、さらには本事業から得られる森林の活用ノウハウを同様の課題を持つ地域へ広く普及させることとしています。

事業は、令和7年3月の完了を目指して実施される予定であり、当事務所では、事業の進捗を見守りながら必要な支援を行ってまいります。

(北部地方振興事務所)



事務所の支援状況

WWF ジャパンと南三陸森林管理協議会との FSC 認証林推進協定が締結

南三陸町の F S C 認証林(※1)の管理強化や認証林拡大を通じて、持続可能な森林づくりを推進し、森林管理の現場でネイチャーポジティブを体験することを目的に、南三陸森林管理協議会(以下「協議会」とWWF ジャパンが「日本の F S C 認証林推進協定」を締結しました。

今後は、WWF ジャパンが、町内の認証林の拡大や普及に向けた協議会の活動を支援するとともに、協定のモデルケースとして P R に努めます。

また、当日は南三陸 F S C 親善大使を担う宮城県南三陸高等学校の生徒の任命式(※2)も併せて行われ、今後、若者の感性を活かした情報発信が期待されます。

当事務所としても、F S C 認証林拡大と知名度アップに向けて、各関係機関と連携し、協議会への支援を引き続き行ってまいります。

(※1 F S Cとは、責任ある森林管理を世界に広めることを目的とする国際的な非営利団体が、持続可能で且つ、適切な森林管理を広めるための国際的な森林認証制度です。)

(※2 地域学の授業のなかで、町の魅力発信動画を制作し南三陸公式 Y o u T u b e「南三陸なうチャンネル」で公表したことがきっかけで実現。)

(気仙沼地方振興事務所)



南三陸 F S C 親善大使任命



2者による協定締結

地域レポート 各圏域の取組を紹介します。

みやぎ森林・林業未来創造カレッジ 令和六年度入講式開催

みやぎ森林・林業未来創造機構は、5月15日、入講式を開催し、研修生60名、所属機関17名、来賓、機構役員など総勢160名が参加しました。

入講式では、機構の大内伸之共同代表が「林業に従事することに誇りを持ち、自己研鑽に励み、カレッジを自分達の学び舎にしてほしい」と式辞を述べました。

来賓の大政康史東北森林管理局長は「カレッジでスキルを身につけ、諸課題に対応し一層の活躍を」とエールを送り、県の中村彰宏水産林政部長は「交流を深め、夢を語り合った同志として相談できる関係を築いてほしい」と知事のメッセージを伝えました。

【記念講演】

世界スタンダードの林業を目指す岩手県の株式会社柴田産業の柴田君也氏に講演と研修生との意見交換を行っていただきました。

柴田氏は「森林・林業の未来創造～次代の担い

手に伝えたい林業の魅力・働きがい」と題し、次世代機械やICTを活用した伐採から再生林の効率化、早生樹育成、子供達が住み続けられる地域づくりなどの取組を紹介し、目指す林業の姿は「再生林百パーセント！循環型伐採」として話を結びました。研修生からは「理想の林業事業体の姿」、「率直に林業は格好いいと思った」などの感想がありました。

カレッジホームページで研修情報を提供していますので参考にしてください。

(機構事務局／林業技術総合センター)



各コースの受講生が一堂に介した記念撮影

野生きのこの出荷に係るお願い

秋のきのこシーズンを迎えるに当たり、出荷に際しては、以下三点について御協力をお願いいたします。

一、大崎市及び栗原市で産出される野生きのこのうち、出荷が可能なのは、なめこ、ならたけ、むきたけの三種であり、非破壊検査により安全確認されていることが要件です。非破壊検査実施のシールが貼付されていないものが販売されていた際は、最寄りの地方振興事務所又は、地域事務所まで御連絡願います。

二、気仙沼市産のまつたけを含め、非破壊検査で所定の基準値を超えたものについては、全検体の精密検査を必ず実施しますので、検体提供に御協力願います。

三、村田町、仙台市、大崎市、栗原市、登米市、気仙沼市、南三陸町では、前述以外の野生きのこの出荷制限が継続しており、フリーマーケットサイトでの販売も含め、流通は厳禁です。

東日本大震災から十三年が経過した現在でも放射性物質の影響による林産物の出荷制限は今なお続

いています。一方で、近年は、非破壊検査器による全量検査を要件とする一部解除や、特定の竹林のみを対象とした一部解除など、新たな手法も認められるようになってきています。

最近では、気仙沼市産のまつたけ(令和三年九月)、丸森町産(大張、金山、館矢間)のたけのこ(令和四年三月)に続き、昨年十月には、大崎市及び栗原市産の野生きのこのうちなめこ、ならたけ、むきたけが非破壊検査器による全量検査を要件に一部解除が実現しました。

また、令和五年三月には、栗原市の旧栗駒町、旧鶯沢町、旧金成町、旧花山村において、特定の竹林のみを対象とした一部解除が認められたところです。

右記以外の地域でも、放射性物質濃度が高い野生きのこが産出される可能性があります。事前に自主検査を実施するなどの安全確認に御協力をお願いします。

(林業振興課 地域林業振興班)



令和6年度林業試験研究の概要

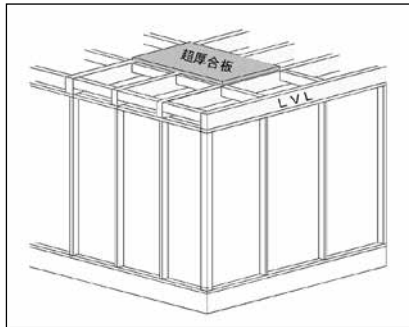
林業技術総合センターでは、3つの技術開発目標を掲げ、今年度は11の課題に取り組んでいます。このうち政策的、重点、新規の6課題について概要を紹介します。

林業・木材産業の一層の産業力強化をけん引する技術の開発

■建築物木造・木質化推進のための県産スギ部材の開発

令和5年度から始めた課題。非住宅への利用をターゲットに高耐力木質面材の開発を目指しています。

今年度は、LVLを枠材、超厚合板を面材にした高耐力床の性能を評価する計画です。



■スギ特定母樹及びクロマツ第二世代品種の開発(第3期)

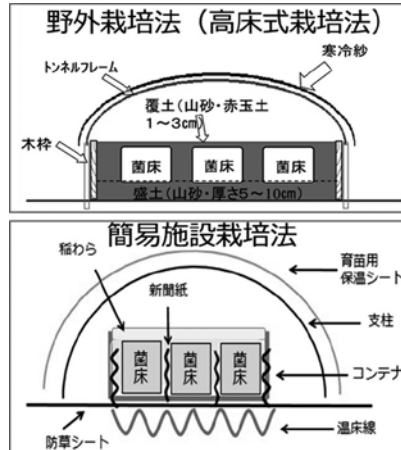
平成27年度から始めた課題。従来よりも初期成長や通直性等に優れたスギ品種の選伐及び毒性の強いマツノザイセンチュウを接種して抵抗性を持つクロマツ品種の開発を目指しています。

今年度は、スギでは次代検定林の候補木の剛性、通直性、雄花着花調査、クロマツでは、1次検定の3回(年)目を実施する計画です。

■ハタケシメジ新品種の栽培技術の確立

今年度から始めた課題。前課題で昨年度選抜されたLD3号候補一株と予備二株を生産者施設で野外栽培・簡易施設栽培を

実施し、LD3号株を決定。また、菌糸選抜、冷蔵・凍結保存、組織分裂の技法によりLD2号や3号菌株の性能を維持する技術の検討を行う計画です。



森林の持つ多面的機能のさらなる発揮に向けた技術の開発

■宮城県におけるカラマツの生育適地の検証等に関する調査

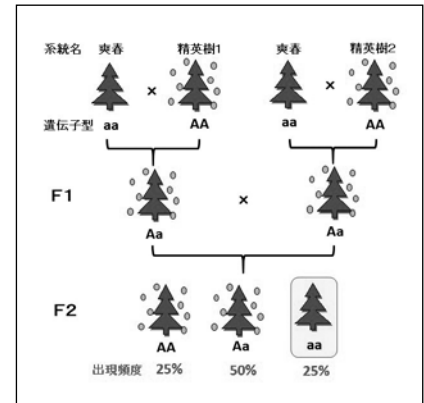
令和3年度から始めた課題で、カラマツが現生する地形や標高等の環境要因を調査し、木材利用が可能となる県内の生育場所の解明を目指しています。併せて東北大学と共同で現生個体の遺伝解析を行い、生育場所や形質等との関係を調べています。

今年度は、県北の海岸地域と県南地域で調査する計画です。

■雄性不稔(無花粉)スギ個体の作出と品種開発に関する研究

平成23年度から始めた課題で、国が開発した無花粉スギ「爽春」と県内精英樹「栗原四号」を掛け合わせた個体から県内由来の無花粉スギ個体一系統の作出に成功しており、国の品種登録及び挿し木苗の供給に向けて採

穂園の造成を行っています。また、昨年度に採種したF2種子のコンテナ苗を育苗して、違う系統の無花粉スギ品種の開発にも取り組んでいます。



東日本大震災からの復興と発展を支える技術の開発

■海岸防災林の生育状況等に関する調査

令和2年度から始めた課題で、東日本大震災で消失したクロマツ人工林跡に盛土造成し、再造林して再生を図っていますが、今後の生育過程が不明であることから、本数調整伐後の生育状況等の調査を行っています。全国的にも類似の事案がほとんどなく、結果が注目されていることから、できるだけ長期間の調査が必要と考えています。併せて、防風・防砂機能の変化についても調査を行っています。

(林業技術総合センター)



YouTubeチャンネル

木材市況の動向

表1 各共販所別木材市況(令和6年7月)

樹種	材長 m	径級 cm	価格(中値 単位:円/m ³)				
			仙南	仙北	大衡	津山	石巻
スギ	3.00	14~16	—	—	—	—	—
		16~30	—	—	—	—	—
		20~32	10,500	—	—	—	—
	4.00	10~13直曲	—	9,000	9,860	10,000	—
		14~18直曲	—	9,000	9,860	9,300	—
		20~22	10,000	—	12,000	10,980	—
		24~34	10,000	11,600	12,000	11,500	—
36~	10,800	—	11,000	11,000	—		

概況
素材動向
 ・素材平均価格は前年と比較し、やや高い水準で推移している。

資料：宮城県森林組合連合会

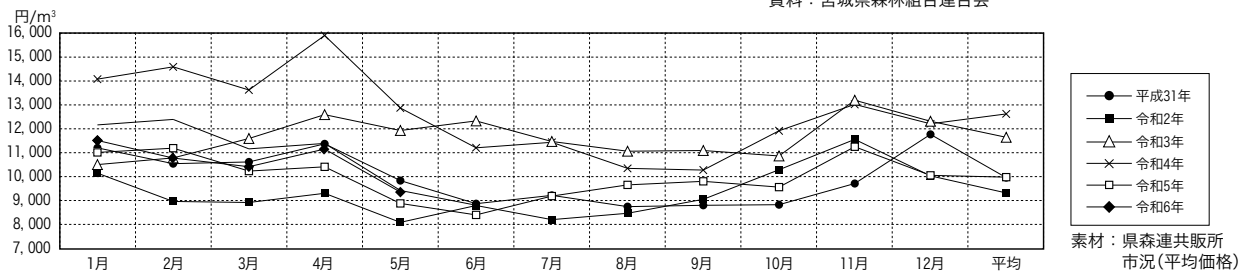


図1 素材価格の動き

素材：県森連共販所市況(平均価格)

特産市況の動向

表2 生しいたけ価格の市況

単位：円/kg

年次	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平成31年	1,064	993	895	932	887	888	901	989	949	908	953	998
令和2年	999	965	977	1,006	973	958	926	944	1,057	1,044	989	1,001
令和3年	1,046	954	916	879	892	862	843	921	939	921	948	1,035
令和4年	1,010	991	982	948	983	1,012	1,035	976	1,002	1,015	1,013	1,038
令和5年	1,031	968	967	966	996	1,038	1,019	996	1,011	1,016	1,006	1,068
令和6年	1,072	1,044	1,069	1,042	1,084	1,014						

資料：仙台中央卸売市場

概況
 ・平成24年に原木しいたけ(露地)が出荷制限指示を受けたこと等に伴い、価格は大きく下落したが、平成26年次以降は900円~1,000円台と、震災前の平均価格を上回っている。
 ・令和6年の生しいたけ年平均の単価(円/kg)は前年よりやや高い水準で推移していたが、6月に前年度同月の価格を下回り1,014円となった。

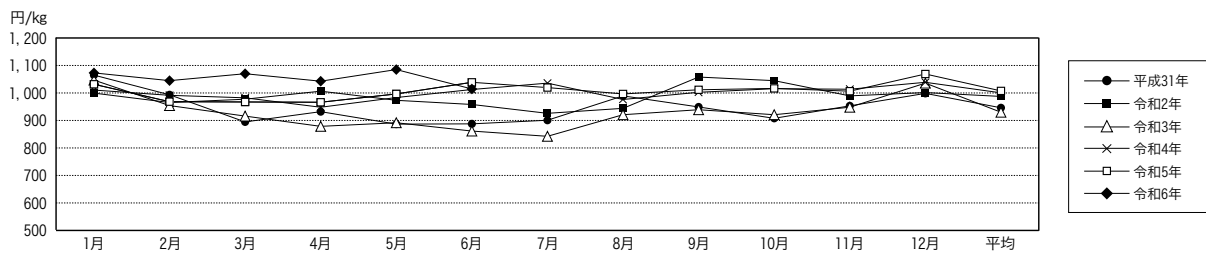


図2 生しいたけ価格の動向

表3 宮城県の新設住宅着工戸数(令和6年5月)

項目	総数	木造戸数	非木造戸数	木造率(%)
令和6年5月(戸)	1,386	1,050	336	75.8
令和5年5月(戸)	1,049	824	255	78.6
前年同月比(%)	132.1	127.4	131.8	—
令和5年6月~令和6年5月(戸)	17,074	12,148	4,926	71.1
令和4年6月~令和5年5月(戸)	16,765	11,872	4,893	70.8
前年同期比(%)	101.8	102.3	100.7	—

資料：住宅着工統計

概況
新設住宅着工戸数
 ・5月の新設住宅計は前年同月比で32.1%増加し、前年同期比では1.8%増となった。
 ・構造別では木造が前年同月比で27.4%増加し、前年同期比で2.3%増となり、木造率は前年同月比で2.8ポイント減の75.8%となった。



今回ご紹介するのは、南三陸町で一般社団法人東北GYROs（ジャイロス）の代表理事を務める大場黎亜（おおば れいあ）さんです。大場さんは、震災やコロナ禍をきっかけに、東北GYROsを通してまちづくりの視点から、森林との関わり方を発信しています。



間口はポップに、入ったら ディープな森づくり活動

東北GYROsを設立しました。ただ、団体の説明としては林業をする団体というより、「森づくりを通じて、人づくり、まちづくりを考えている団体です」と説明することが多いです。地域のことを一緒に考える中で、いろんな人が誰でも森づくりに関わられるよう、まずは自分たちから動いています。

現在は、週1、2回ほどの頻度で町内の森林の整備をし、時々体験イベントの開催をしています。自伐型林業のスタイルを参考にしながら、伐採した木材は、薪や木工用の材料として町内外に出荷します。会員の参加頻度は週数回から数か月に1度まで様々です。

活動を通して大事にしているのは「間口はポップに、入ったらディープに」ということです。林業ってハードル高いイメージありますし、実際に辛い時もありますが、楽しさや奥深い面もたくさん。それらを伝えることで「自分のまちでも何かできないか」と思う人と山を繋ぐきっかけにもなれたらと思っています。

活動の中では、山での活動が

ほとんどなので、作業中のリスク管理に特に気を配っています。難易度が高く自分たちだけでは危険な場合は「甘える時は甘える」と決めて、町内で林業を営む先輩方に手伝っていただきながら活動をしています。

山と関わり、 町を理解する人を 増やしていく

今後、東北GYROsの規模を大きくしたいとは思っていません。団体名の由来となっているジャイロ現象のように、初心を忘れずブレない気持ちで、とにかく続けること。そして、山との関わりによってまちをより理解する人を増やすための挑戦をし続けることが、私たちの目標です。

あとは、私たちのスタイルが一つの参考になって、東北各地でもまちづくりのために山と向き合う人たちが増えたら嬉しいです。そして、その仲間同士が横のつながりを持つことで、東北全体の森づくり活動が活発になったらいいなと思います。

山を理解することで 海を理解する まちづくりの形

新型コロナウイルス感染症の影響で都市間の移動が難しくなり、元々本業としていた防災教育やまちづくりなどの仕事がままならなくなりました。その折に、災害時や地域で何か役に立てばと、チェーンソーや重機の使い方を学べる林業研修を受講したのがきっかけです。

研修で、山を理解することが、南三陸町の海をより深く理解することに繋がると気付き、その理解が南三陸町のまちづくりに繋がる大切なことだと感じたんです。

研修の後、同じ想いの仲間たちと共に町民の方から提供していただいた山で活動するために、

活動の様子

東北GYROsさんは、普段の里山整備や伐採した木材の薪割り・販売のほか、山と親しむ体験会やイベント開催もしています。

- ・3月のイベント参加者の皆さんと(左)
- ・キャンプ場で薪割り体験会(右)



国産材(生産販売)、木材チップ生産
製材業、伐出造林請負



宮城十條林産株式会社

代表取締役 亀山 武弘

本社 〒980-0871
仙台市青葉区八幡3丁目2番7号
☎仙台(022)261-2151(代) FAX(022)261-2150
営業所 気仙沼・栗駒・飯野川・大和・白石・郡山・岩出山
工場 気仙沼・栗駒・白石・岩出山・鶯沢
関連会社 宮十運輸株式会社・宮十造園土木株式会社
株式会社宮城環境保全研究所

地域との共生 めぐるめぐみ



坂元植林株式会社
株式会社サカモト



坂元植林の家



ウッドデザイン賞 環境大臣賞

989-1601 宮城県柴田郡柴田町船岡中央 1-9-12
Tel:0224-58-1100 Fax:0224-58-2252 web-sakamoto.co.jp

宮城県木材チップ協同組合

代表理事 亀山 武弘
専務理事 小澤 幸三
理事 亀山 征弘
理事 梶原 領太
監事 阿部 貢也
監事 石田 竜也

〒980-0871 仙台市青葉区八幡三丁目2番7号
電話 022(261)2151 FAX 022(261)2150

宮城県木材チップ工業会

会長 米澤 光秀
副会長 永井 政雄
副会長 菅原 正義
副会長 佐藤 裕康
ほか理事一同

〒980-0871 仙台市青葉区八幡三丁目2番7号
電話 022(261)2151

緑をはぐくみ水をつくる
奥地水源地域の森林整備

水源林造成事業

宮城県水源林造林協議会

〒980-0011
仙台市青葉区上杉2丁目4-46
宮城県森林組合会館内
TEL (022) 266-7121

一般財団法人 佐々君治山報恩会

代表理事 遊佐 勘左衛門

〒989-6165 大崎市古川十日町4番14号
TEL (0229) 22-1281
FAX (0229) 22-1281
E-mail: sasakimi@proof.ocn.ne.jp

- 製材機械
- プレカット機械 「木」に関連する機械の販売及びメンテナンス
- 農林業機械

筒井鋼機株式会社

☎ (022)224-1261
📄 (022)265-9231

〒980-0013
仙台市青葉区花京院二丁目2番22号



弊社WEB

「公益信託 農林中金森林再生基金」(農中^{もりちから}森力基金)等を通じ、森林の公益性発揮を
目指した活動を積極的に支援していきます。

農林中央金庫 仙台支店

〒980-0011 仙台市青葉区上杉一丁目2番16号 (JAビル宮城内) ☎022(711)7531(代)

私たちは森林づくりのプロフェッショナルです。ご相談はお近くの森林組合に！

JForest 宮城県森林組合連合会

仙台市青葉区上杉2丁目4-46
TEL022-225-5991 FAX022-225-5994

■優良みやぎ材の原木は

仙南地区木材センター 0224-65-2166 仙北地区木材センター 0229-72-1877
大衡綜合センター 022-345-2205 津山木材センター 0225-68-3038

■樹木の枝や根の有効利用は ウッドリサイクルセンター 022-345-6041

花粉症対策スギ挿木コンテナ苗木, 海岸防災林用抵抗性クロマツ苗木をはじめ,
林業用及び森林復旧用各種苗木のご用命・ご相談承ります。

宮城県農林種苗農業協同組合

〒980-0011 仙台市青葉区上杉二丁目4番46号
TEL (022) 222-3661 FAX (022) 222-3688

林業の **今** を伝える月刊誌



GR 現代林業

A5判 80頁
年間購読料 5,400円(送料込み)



林業新知識

B5判 24頁
年間購読料 3,000円(送料込み)



山林

A5判 66頁
年間購読料 3,500円(送料込み)

図書の申込、問い合わせは

宮城県林業振興協会

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
宮城県仙台合同庁舎10階

TEL 022-301-7501
FAX 022-301-7502

スゴいぞ! みやぎの木のチカラ



木×SDGs

Wise use of woods from みやぎ!

県土の約6割を占める森林は、水源のかん養や山地災害の防止など多様な機能を担っており、その発揮が様々なSDGsの目標達成に貢献しています。また、製造時のCO2排出量が少なく、内部に炭素を蓄える木材を上手に利用すること（ワイズユーズ）は、温暖化防止など様々なSDGsに貢献し、そこから生み出される恵みを森林の再生に還元させることで持続可能な循環を作り出すことができます。

みやぎにはJAS製材品など優れた品質の木材や高度な加工技術があります。どうぞ、家づくりや街づくり等において「みやぎの木のチカラ」を実感してください。

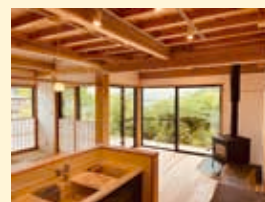
私たちがお手伝いいたします。

宮城県木材協同組合の取組例

JAS製品の
利用拡大



宮城県産材
利用拡大




宮城県木材協同組合 理事長 米澤 光秀
tel: 022(233)2883 <https://miyagi-wood.jp>

令和6年度JAS構造材実証支援事業

発行 宮城県林業振興協会 仙台市青葉区堤通雨宮町四番十七号
編集協力 宮城県水産林政部林業振興課

森林は大切な資源です
森林整備を通して
美しい森林を未来に伝えます

 一般社団法人 宮城県林業公社
(森林整備法人)

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL (022)275-9171 FAX (022)275-9172
<http://www.miyagi-rinkou.sakura.ne.jp>

 **緑の募金**
にご協力ください!

秋の強調月間

9月1日~10月31日

年間目標額 **45,000,000円**

令和6年緑の募金運動スローガン

「緑の募金で進めよう SDGs」~森林を守る 森林を活かす~



公益社団法人 **宮城県緑化推進委員会**

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17 宮城県仙台合同庁舎10階
TEL.022-301-7501 FAX.022-301-7502